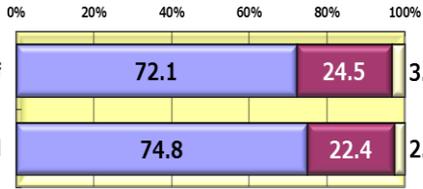


平均正答率は72.1%。伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項で成果が見られるものもあるが、基礎的・基本的な知識・技能の定着状況に課題が見られ、引き続き指導の充実が求められる。

正答率比較

小学校国語A区分問題

■正答率 ■誤答率 □無解答率



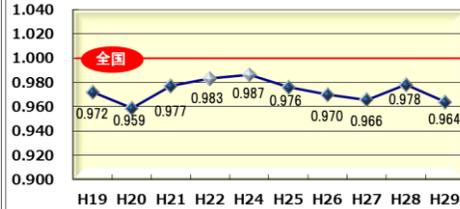
平均正答率は全国を2.7ポイント下回った

◆全国の平均正答率が74.8%であるのに対し、大阪府の平均正答率は72.1%であり、2.7ポイント全国を下回った。

対全国比は昨年度を下回った

◆各年度における平均正答率は年度ごとの問題の難易度に左右されるため、それらの条件を捨象して比較する必要がある。そこで、全国の平均正答率を1とし、大阪府の平均正答率との割合で比較した。平成22年度と24年度は抽出調査だったため、単純に経年比較することは難しい。平成29年度は0.964となり、昨年度を下回った。

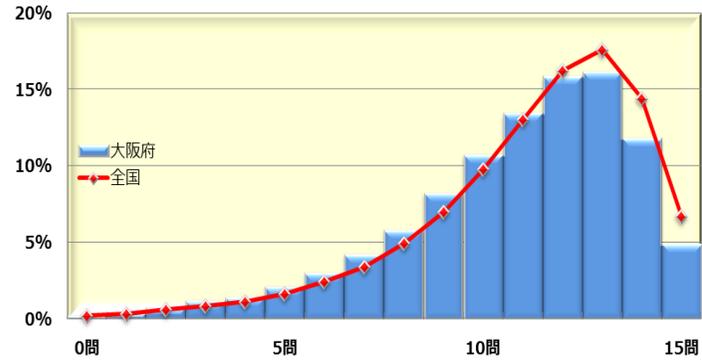
小学校国語A区分正答率対全国比経年比較



具体的な課題等

- ◇学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読むことは、相当数の児童ができています。(「期限」、「事務室」、「指示」の読みをひらがなで書く。)
- ◇ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いることは、相当数の児童ができています。(「三度目の正直」、「もちはもち屋」の適切な使い方を選択する。)
- ◆手紙の構成を理解し、後付けを書くことに課題がある。(手紙の後付けに必要な日付、署名、宛て名のそれぞれの位置について、適切なものを選択する。)
- ◆学年別配当表に示されている漢字を正しく書くことに課題がある。(参加たいしよう「対象」を正しく書く。4年生のきぼう者「希望」を正しく書く。)

正答数分布



正答数分布の様子は全国の状況と同傾向

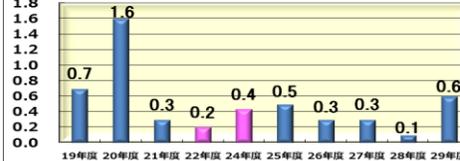
- ◆大阪府・全国ともに13問を頂点とした右よりの山型を描いている。
- ◆大阪府は0～11問では、全国よりも正答数分布の割合は高く、12～15問では全国よりも低い。

無解答率比較

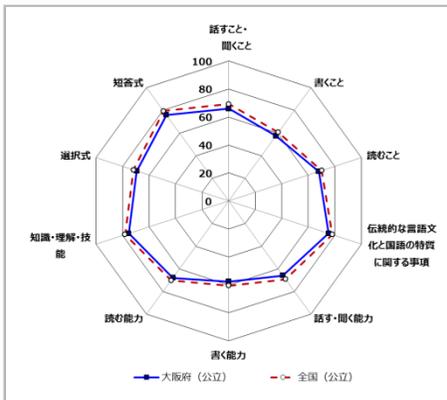
無解答率は全国の状況を0.6ポイント上回った

◆無解答率の全国との差を経年比較すると、平成21年度からは0.6ポイント以下になっている。今年度は全国の状況を0.6ポイント上回り、昨年度より差が広がった。

小国A区分・無解答率全国差の推移



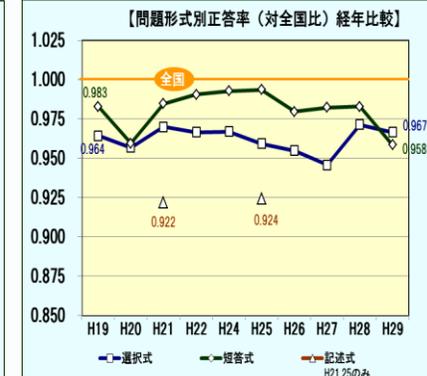
領域・観点・問題形式別



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

◆レーダーチャートの描くラインは、全国の状況とほぼ重なるように同傾向を示している。

◆今回の出題内容においては、全国、大阪府とも「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で高い値を示している。



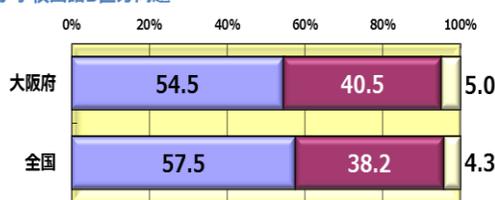
◆悉皆調査の結果と抽出調査の結果を、単純に経年比較することは難しいが、全国の平均正答率を1として、大阪府の平均正答率の割合を比較すると、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて上のような傾向が見られる。(H19,20,21,25,26,27,28,29は悉皆調査、H22,24は抽出調査)

区分問題 (主に「活用」に関する問題)

平均正答率は54.5%。目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書いたり、叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめることに課題があり、言語活動を通した指導の充実が求められる。

正答率比較

小学校国語B区分問題



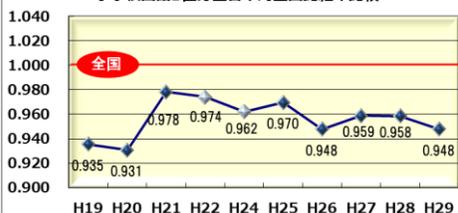
平均正答率は全国を3.0ポイント下回った

◆ 全国の平均正答率が57.5%であるのに対し、大阪府の平均正答率は54.5%であり、3.0ポイント全国を下回った。

対全国比は昨年度を下回った

◆ 各年度における平均正答率は年度ごとの問題の難易度に左右されるため、それらの条件を捨象して比較する必要がある。そこで、全国の平均正答率を1とし、大阪府の平均正答率との割合で比較した。平成22年度と24年度は抽出調査だったため、単純に経年比較することは難しい。今年度は0.948となり、昨年度を下回った。

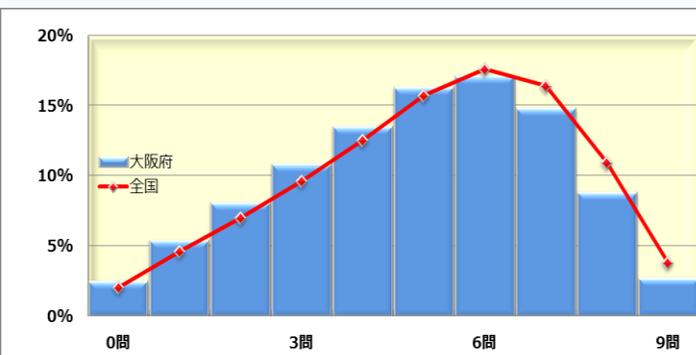
小学校国語B区分正答率対全国比経年比較



具体的な課題等

- ◆ 目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書くことに課題がある。
(「水やりに協力してくれる人をぼ集めます」の「イ」に入る内容を、中学生からの【アドバイス】を基に書く。)
- ◆ 自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉えることに課題がある。
(「きつねの写真」を読んだあとの話し合いにおけるア・イの発言の意図として、適切なものをそれぞれ選択する。)
- ◆ 物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめることに課題がある。
(「きつねの写真」から取り上げた言葉や文を基に、松ぞうじいさんとび吉がきつねだと考えたわけをまとめて書く。)

正答数分布



正答数分布の様子は全国と同傾向

- ◆ 全国、大阪府とも6問を頂点とした右よりの山型を描いている。
- ◆ 大阪府は0～5問では全国よりも正答数分布の割合は高く、6～9問では全国より低い。

無解答率比較

無解答率は全国の状況を0.7ポイント上回った

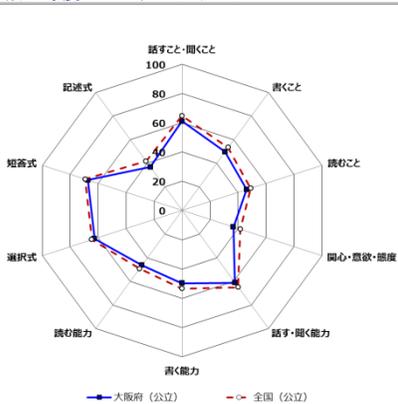
◆ 無解答率の全国との差を経年比較すると、平成21年度からは1.2ポイント以下になっている。今年度は全国の状況を0.7ポイント上回り、昨年度より差は縮まった。

小国B区分・無解答率全国差の推移



領域・観点・問題形式別

平成29年度 レーダーチャート



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

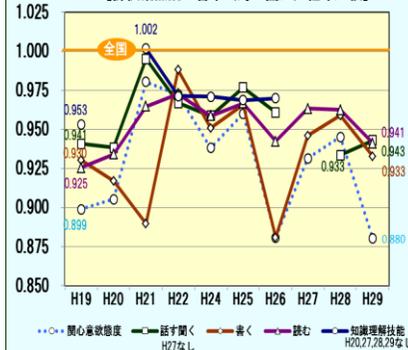
◆ レーダーチャートの描くラインは、全国の状況とほぼ重なるように同傾向を示している。

◆ 今回の出題内容においては、全国、大阪府とも「書くこと」「読むこと」「関心・意欲・態度」「書く能力」「読む能力」「記述式」で低い値を示している。

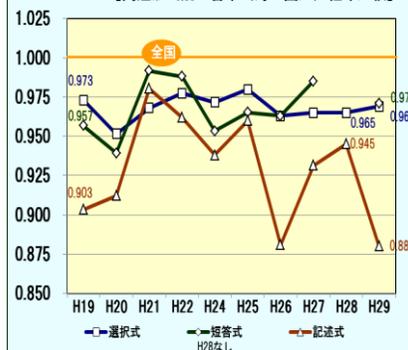
【指導領域別正答率(対全国比)経年比較】



【評価観点別正答率(対全国比)経年比較】



【問題形式別正答率(対全国比)経年比較】



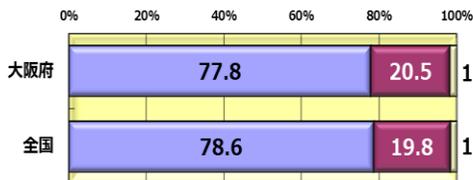
◆ 悉皆調査の結果と抽出調査の結果を、単純に経年比較することは難しいが、全国の平均正答率を1として、大阪府の平均正答率の割合を比較すると、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて上のような傾向が見られる。(H19,20,21,25,26,27,28,29は悉皆調査、H22,24は抽出調査)

平均正答率は77.8%。基礎的・基本的な事項の習得に課題が見られるものがあり、引き続き定着を図る取組みを進めるなど、指導の充実が求められる。

正答率比較

小学校算数A区分問題

■正答率 ■誤答率 □無解答率



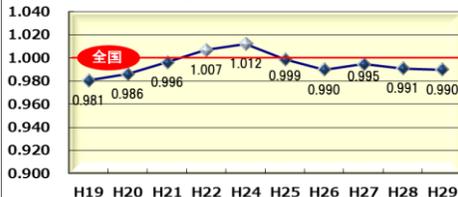
平均正答率は全国を0.8ポイント下回った

◆全国の平均正答率が78.6%であるのに対し、大阪府の平均正答率は77.8%であり、0.8ポイント全国を下回った。

対全国比は昨年度とほぼ同じ

◆各年度における平均正答率は年度ごとの問題の難易度に左右されるため、それらの条件を捨象して比較する必要がある。そこで、全国の平均正答率を1とし、大阪府の平均正答率との割合で比較した。平成22年度と24年度は抽出調査だったため、単純に経年比較することは難しい。今年度は0.990となり、昨年度とほぼ同じだった。

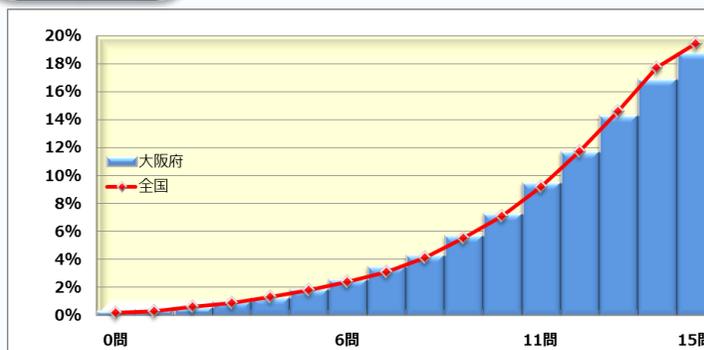
小学校算数A区分正答率対全国比経年比較



具体的な課題等

- ◇小数の乗法の計算において、乗数を整数に置き換えて考えるときの、乗法の性質を理解することは、相当数の児童ができていない。(60×0.4を60×4を基にして考える時の、正しい積の求め方を選ぶ)
- ◇二つの最小公倍数を求めることは、相当数の児童ができていない。(8と12の最小公倍数を求める)
- ◇立方体の面と面の位置関係を理解することは、相当数の児童ができていない。(立方体の展開図から、示された面と平行な面を選ぶ)
- ◆1より小さい数をかける乗法の問題場面を理解し、数量の関係を数直線に表わすことに課題がある。(買ったリボンの長さ、1m当たりのリボンの値段と、代金が、それぞれ数直線上のどこにあてはまるかを選ぶ)
- ◆商を分数で表すことに課題がある。(5÷9の商を分数で表す)
- ◆資料から、二次元表の合計欄に入る数を求めることに課題がある。(二次元表の合計欄に入る数を書く)

正答数分布



正答数分布の様子は全国の状況と同傾向

- ◆全国、大阪府ともに15問を頂点とした左歪曲分布である。
- ◆大阪府は0～11問では、全国よりも正答数分布の割合は高く、13～15問では、全国より低い。

無解答率比較

無解答率は全国の状況を0.1ポイント上回った

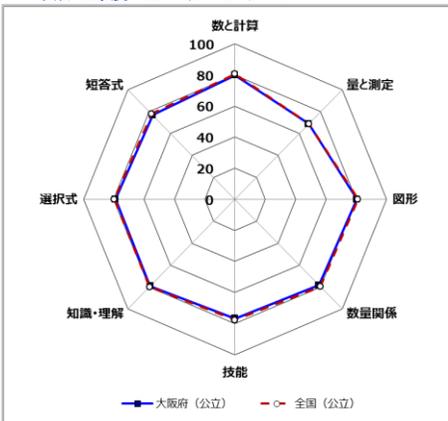
◆無解答率の全国との差を経年比較すると、平成24年度から0.1ポイント以下になっている。今年度は0.1ポイントとなり、昨年度と同じ状況であった。

小学校A区分・無解答率全国差の推移



領域・観点・問題形式別

平成29年度 レーダーチャート

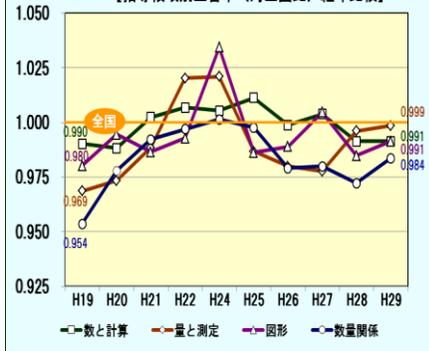


領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

◆レーダーチャートの描くラインは、全国の状況とほぼ重なるように同傾向を示している。

◆今回の出題内容においては、全国、大阪府とも「量と測定」でやや低い値を示している。

【指導領域別正答率(対全国比)経年比較】



【評価観点別正答率(対全国比)経年比較】



【問題形式別正答率(対全国比)経年比較】



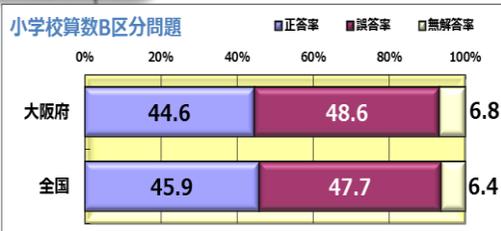
◆悉皆調査の結果と抽出調査の結果を、単純に経年比較することは難しいが、全国の平均正答率を1として、大阪府の平均正答率の割合を比較すると、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて上のような傾向が見られる。(H19,20,21,25,26,27,28,29は悉皆調査、H22,24は抽出調査)

小学校算数 B

区分問題 (主に「活用」に関する問題)

平均正答率は44.6%。数量の関係を一般化して捉え、そのきまりを記述したり、示された方法を数学的に解釈し、ほかの場面に適用して解決方法を考え記述したりすることに課題があり、指導の充実が求められる。

正答率比較



平均正答率は全国を1.3ポイント下回った

◆全国の平均正答率が45.9%であるのに対し、大阪府の平均正答率は44.6%であり、1.3ポイント全国を下回った。

対全国比は昨年度を上回った

◆各年度における平均正答率は年度ごとの問題の難易度に左右されるため、それらの条件を捨象して比較する必要がある。そこで、全国の平均正答率を1とし、大阪府の平均正答率との割合で比較した。平成22年度と24年度は抽出調査だったため、単純に経年比較することは難しい。今年度は0.972となり、昨年度を上回った。

具体的な課題等

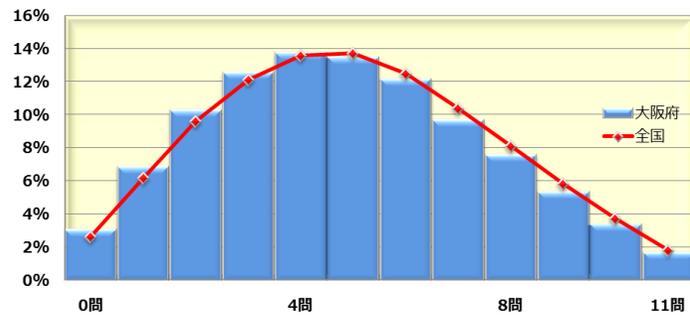
◇示された考えを解釈し、数を変更した場合も同じ関係が成り立つことを、図に表現することは、相当数の児童ができている。(示された考えを基に、54-45の場合で残る部分を図に表わす)

◆問題に示された二つの数量の関係を一般化して捉え、そのきまりを記述することに課題がある。(2けたのひき算の答えを求めることができるきまりを書く)

◆仮の平均を用いた考えを解釈し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を記述することに課題がある。(仮の平均の考え方を活用して、測定値の平均を求める)

◆身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量を判断し、その判断の理由を記述することに課題がある。(与えられた情報から、基準量、比較量、割合の関係を捉え、「最大の満月の直径」に近い硬貨を選び、選んだわけを書く)

正答数分布



正答数分布の様子は全国と同傾向

◆全国は5問、大阪府は4問を頂点とした山型を描いている。
◆大阪府は0~4問では、全国よりも正答数分布の割合は高く、5~11問では全国より低い。

無解答率比較

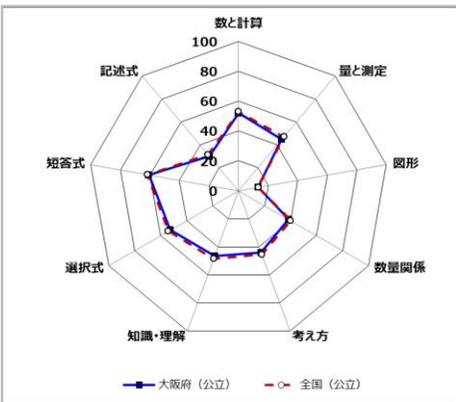
無解答率は全国の状況を0.4ポイント上回った

◆無解答率の全国との差を経年比較すると、平成24年度からは0.4ポイント以下になっている。今年度は全国の状況を0.4ポイント上回り、昨年度と同じ状況であった。



領域・観点・問題形式別

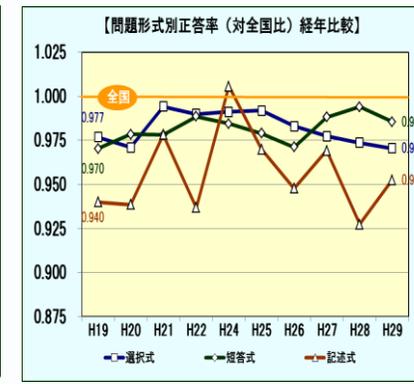
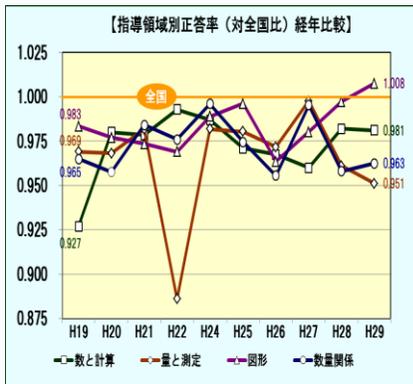
平成29年度 レーダーチャート



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

◆レーダーチャートの描くラインは、全国の状況とほぼ重なるように同傾向を示している。

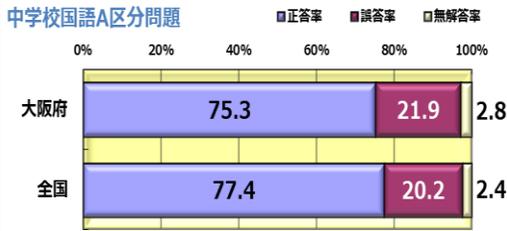
◆今回の出題内容においては、全国、大阪府とも「図形」「記述式」で特に低い値を示している。



◆悉皆調査の結果と抽出調査の結果を、単純に経年比較することは難しいが、全国の平均正答率を1として、大阪府の平均正答率の割合を比較すると、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて上のような傾向が見られる。(H19,20,21,25,26,27,28,29は悉皆調査、H22,24は抽出調査)

平均正答率は75.3%。伝えたい内容を明確にして話したり、多様な語句について理解を深めながら語感を磨き語彙を豊かにしたりすることに課題があり、指導の充実が求められる。

正答率比較



平均正答率は全国を2.1ポイント下回った

◆全国の平均正答率が77.4%であるのに対し、大阪府の平均正答率は75.3%であり、全国を2.1ポイント下回った。

対全国比は昨年度とほぼ同じ

◆各年度における平均正答率は年度ごとの問題の難易度に左右されるため、それらの条件を捨象して比較する必要がある。そこで、全国の平均正答率を1とし、大阪府の平均正答率との割合で比較した。平成22年度と24年度は抽出調査だったため、単純に経年比較することは難しい。今年度は0.973となり、昨年度とほぼ同じだった。

無解答率比較

無解答率の全国の状況を0.4ポイント上回った

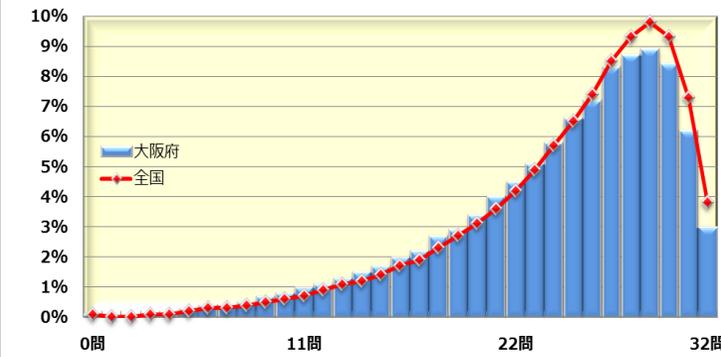
◆無解答率の全国との差を経年比較すると、平成25年度から0.8ポイント以下になっている。今年度は全国の状況を0.4ポイント上回り、昨年度より差は広がった。



具体的な課題等

- ◇目的や意図に応じて材料を集め、自分の考えをまとめることは相当数の生徒ができています。(〈推薦者から〉の欄に書き加える具体例に使う情報として適切なものを選択する)
- ◇目的に応じて資料を効果的に活用して話すことは、相当数の生徒ができています。(スピーチをより分かりやすくするためにイラストを提示する箇所として適切なものを選択する)
- ◆相手にわかりやすいように語句を選択して話すことに課題がある。(先生から必要な情報をもらうために適した発言に直す)
- ◆事象や行為などを表す多様な語句について理解することに課題がある。(話し合いの記録として適切な言葉を考える)

正答数分布

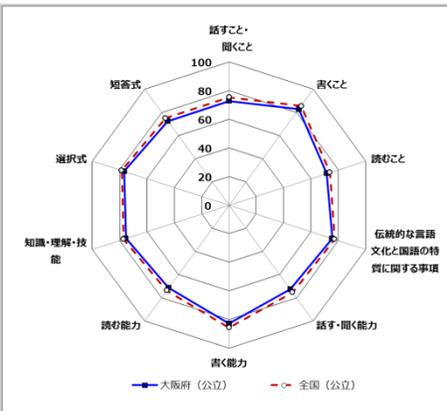


正答数分布の様子は全国の状況と同傾向

- ◆全国、大阪府とも28問を頂点にした右よりの山型を描いている。
- ◆大阪府は5～25問では、全国よりも正答数分布の割合は高く、26問～32問では全国よりも低い。

領域・観点・問題形式別

平成29年度 レーダーチャート



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

◆レーダーチャートの描くラインは、全国の状況とほぼ重なるように同傾向を示している。

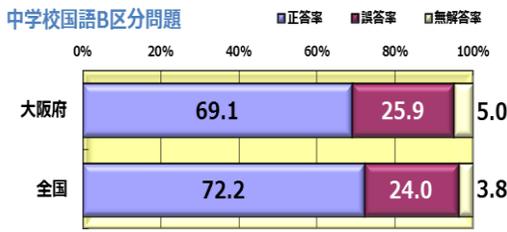
◆今回の出題内容においては、全国、大阪府とも「書くこと」「書く能力」で高い値を示している。



◆悉皆調査の結果と抽出調査の結果を、単純に経年比較することは難しいが、全国の平均正答率を1として、大阪府の平均正答率の割合を比較すると、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて上のような傾向が見られる。(H19,20,21,25,26,27,28,29は悉皆調査, H22,24は抽出調査)

平均正答率は69.1%。話の展開を踏まえて叙述の意味を捉えたり、根拠として取り上げる内容が適切かどうか吟味して書いたり、相手や場を意識して話したりすることに課題があり、指導の充実が求められる。

正答率比較



平均正答率は全国を3.1ポイント下回った

◆全国の平均正答率が72.2%であるのに対し、大阪府の平均正答率は69.1%であり、3.1ポイント全国を下回った。

対全国比は昨年度を上回った

◆各年度における平均正答率は年度ごとの問題の難易度に左右されるため、それらの条件を捨象して比較する必要がある。そこで、全国の平均正答率を1とし、大阪府の平均正答率との割合で比較した。平成22年度と24年度は抽出調査だったため、単純に経年比較することは難しい。今年度は0.957となり、昨年度より上回った。

無解答率比較

無解答率は全国の状況を1.2ポイント上回った

◆無解答率の全国との差を経年比較すると、平成25年度から1.5ポイント以下になっている。今年度は全国の状況を1.2ポイント上回り、昨年度より差は広がった。



具体的な課題等

- ◇場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容を理解することは相当数の生徒ができています。(地の文にある言葉を発した人物を文章の中から抜き出す)
- ◇目的に応じて情報を読み取り、それを資料として効果的に活用することについては相当数の生徒ができています。(スピーチの中で実演を行った意図として適切なものを選択する)
- ◆表現の仕方について捉え、自分の考えを書くことに課題がある。(比喩を用いた表現に着目し、感じたことや考えたことなどを書く)
- ◆相手の反応を踏まえながら事実や事柄が相手にわかりやすく伝わるように工夫して話すことに課題がある。(スピーチの内容を聞き手からの意見に基づいて直す)

正答数分布

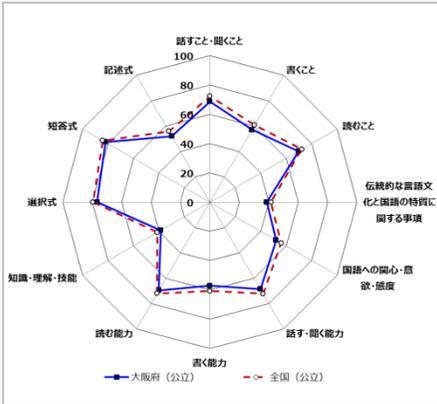


正答数分布の様子は全国の状況と同傾向

- ◆全国、大阪府とも8問を頂点とした右よりの山型を描いている。
- ◆大阪府は0～6問では、全国よりも正答数分布の割合は高く、7～9問では、全国より低い。

領域・観点・問題形式別

平成29年度 レーダーチャート



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

◆レーダーチャートの描くラインは、全国の状況とほぼ重なるように同傾向を示している。

◆今回の出題内容においては、全国、大阪府とも「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」「国語への関心・意欲・態度」「言語についての知識・理解・技能」で低い値を示している。

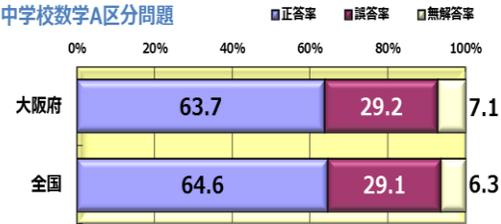


◆悉皆調査の結果と抽出調査の結果を、単純に経年比較することは難しいが、全国の平均正答率を1として、大阪府の平均正答率の割合を比較すると、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて上のような傾向が見られる。(H19,20,21,25,26,27,28,29は悉皆調査、H22,24は抽出調査)

平均正答率は63.7%。図形の領域において成果が見られるものもあるが、関数や資料の活用の領域において課題があり、基礎的、基本的な知識・技能の習得など、指導の充実が求められる。

正答率比較

中学校数学A区分問題



平均正答率は全国を0.9ポイント下回った

◆ 全国の平均正答率が64.6%であるのに対し、大阪府の平均正答率は63.7%であり、0.9ポイント全国を下回った。

対全国比は昨年度を下回った

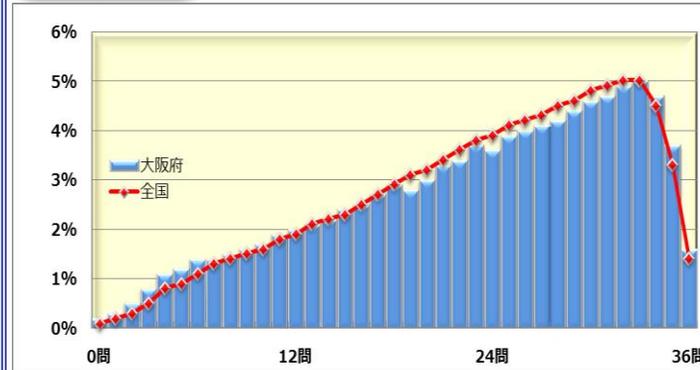
◆ 各年度における平均正答率は年度ごとの問題の難易度に左右されるため、それらの条件を捨象して比較する必要がある。そこで、全国の平均正答率を1とし、大阪府の平均正答率との割合で比較した。平成22年度と24年度は抽出調査だったため、単純に経年比較することは難しい。今年度は0.986となり、昨年度を下回った。



具体的な課題等

- ◇ 分数の乗法の計算については相当数の生徒ができていない。(5/9 × 2/3を計算する)
- ◇ 平行移動した図形を書くことについては相当数の生徒ができていない。(平行移動した三角形を書く)
- ◇ 与えられた比例の式について、xの値に対応するyの値を求めることについては相当数の生徒ができていない。(y = 4xについて、xの値が3のときのyの値を求める)
- ◆ 扇形の弧の長さを求めることに課題がある。(半径と中心角の決まった扇形の弧の長さを求める)
- ◆ 関数の意味の理解に課題がある。(2つの数量の関係を・・・は・・・の関数であるという形で表現する)
- ◆ 与えられた反比例の表において、比例定数の意味を理解することに課題がある。(反比例の表から比例定数を求める)
- ◆ 資料から範囲を読み取ることに課題がある。(記録の表から範囲を求める)

正答数分布



正答数分布の様子は全国の状況と同傾向

- ◆ 全国は32~33問を、大阪府は33問を頂点とした右よりの山型を描いている。
- ◆ 大阪府は1~7問、15問、34~36問では、全国よりも正答数分布の割合が高く、19~32問では全国より低い。

無解答率比較

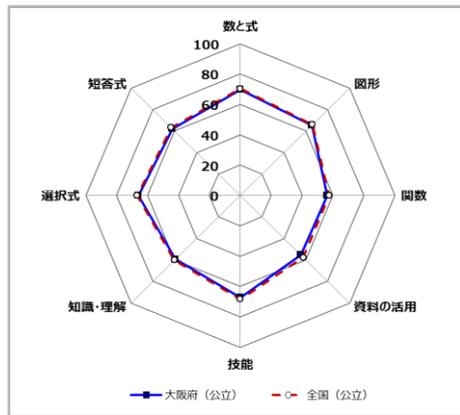
無解答率は全国の状況を0.8ポイント上回った

◆ 無解答率の全国との差を経年比較すると、平成24年度からは1.2ポイント以下になっている。今年度は全国の状況を0.8ポイント上回り、昨年度より差は広がった。



領域・観点・問題形式別

平成29年度 レーダーチャート



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

◆ レーダーチャートの描くラインは、全国の状況とほぼ重なるように同傾向を示している。

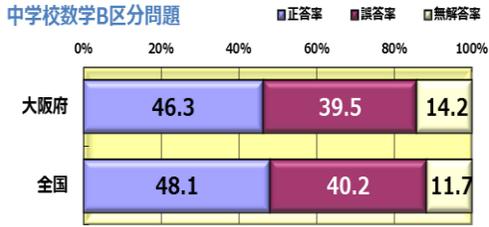
◆ 今回の出題内容においては、全国、大阪府とも「数と式」「図形」「技能」でやや高く、「関数」「資料の活用」でやや低い値を示している。



◆ 悉皆調査の結果と抽出調査の結果を、単純に経年比較することは難しいが、全国の平均正答率を1として、大阪府の平均正答率の割合を比較すると、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて上のような傾向が見られる。(H19,20,21,25,26,27,28,29は悉皆調査、H22,24は抽出調査)

平均正答率は46.3%。見いだした事柄や事実、問題解決の方法、事柄が成り立つ理由を数学的な表現を使って説明することに課題があり、指導の充実が求められる。

正答率比較



平均正答率は全国を1.8ポイント下回った

◆全国の平均正答率が48.1%であるのに対し、大阪府の平均正答率は46.3%であり、1.8ポイント全国を下回った。

対全国比は昨年度を下回った

◆各年度における平均正答率は年度ごとの問題の難易度に左右されるため、それらの条件を捨象して比較する必要がある。そこで、全国の平均正答率を1とし、大阪府の平均正答率との割合で比較した。平成22年度と24年度は抽出調査だったため、単純に経年比較することは難しい。今年度は0.963となり、昨年度を下回った。

無解答率比較

無解答率は全国の状況を2.5ポイント上回った

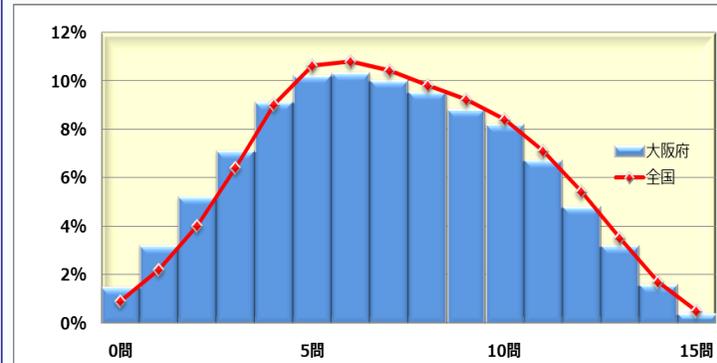
◆無解答率の全国との差を経年比較すると、平成26年度からは2.5ポイント以下になっている。今年度は全国の状況を2.5ポイント上回り、昨年度より差は広がった。



具体的な課題等

- ◆2つの図形の関係を回転移動に着目して捉え、数学的な表現を用いて説明することに課題がある。(一方の図形の模様をどのように回転移動するともう一方の図形の模様になるかを説明する)
- ◆事象と式の対応を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を説明することに課題がある。(六角形をn個つくるのに必要なストローの本数を、与えられた式で求めることができることを説明する)
- ◆事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。(与えられたデータを基に、ダム貯水量が1500万 m^3 になるまでの日数を求める方法を説明する。)
- ◆筋道を立てて証明することに課題がある。(2つの角の大きさが等しいことを、三角形の合同を使って説明する)
- ◆資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。(2つの度数分布多角形から資料の特徴を見だし、数学的な表現を用いて説明する。)

正答数分布

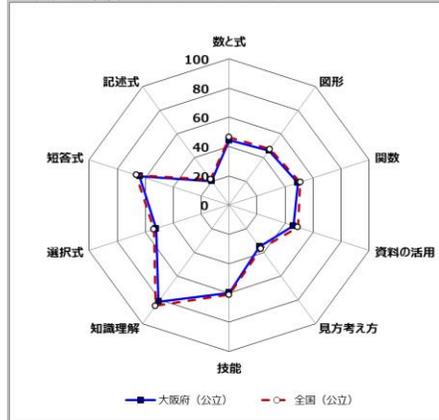


正答数分布の様子は全国の状況と同傾向

- ◆全国は6問、大阪府は6問を頂点とした左よりの山型を描いている。
- ◆大阪府は0~4問では、全国よりも正答数分布の割合が高く、5~15問では全国より低い。

領域・観点・問題形式別

平成29年度 レーダーチャート



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

◆レーダーチャートの描くラインは、全国の状況とほぼ重なるように同傾向を示している。

◆今回の出題内容においては、全国、大阪府とも「数学的な見方や考え方」「記述式」で特に低い値を示している。



◆悉皆調査の結果と抽出調査の結果を、単純に経年比較することは難しいが、全国の平均正答率を1として、大阪府の平均正答率の割合を比較すると、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて上のような傾向が見られる。(H19,20,21,25,26,27,28,29は悉皆調査、H22,24は抽出調査)

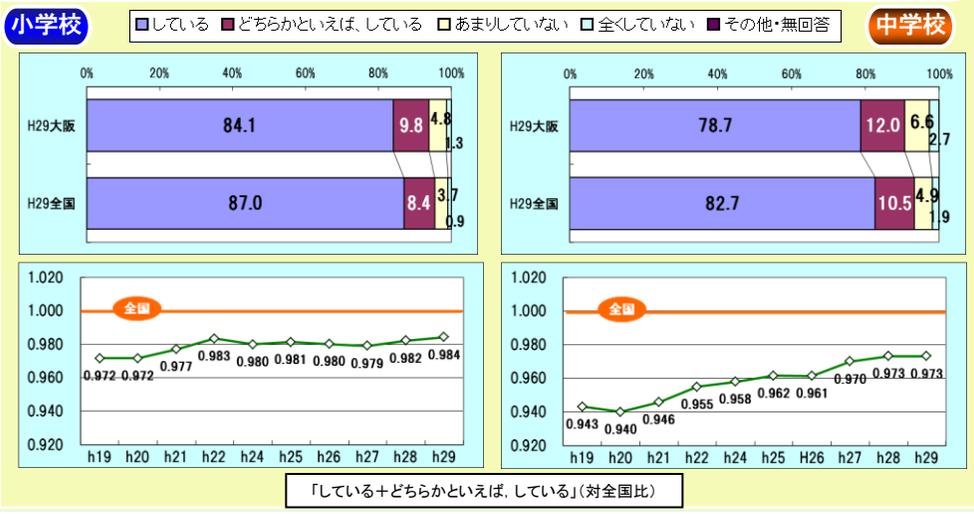
◆大阪の子どもたちの様子 (公立小・中学校) - 児童・生徒質問紙調査より - No.1

◆帯グラフの数値はすべて%表示です。
 ◆折れ線グラフの数値(対全国比)は、大阪府/全国で算出した値です。

1 朝ごはん

Q: 朝食を毎日食べていますか?

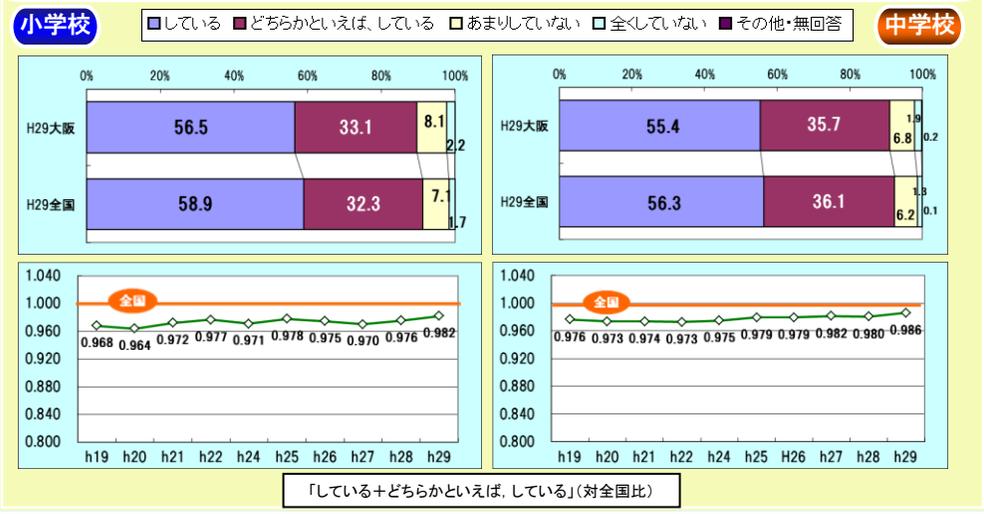
・小・中学校ともに、「朝食を毎日食べている」児童・生徒の割合は、全国の状況を下回っている



2 起床時刻

Q: 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか?

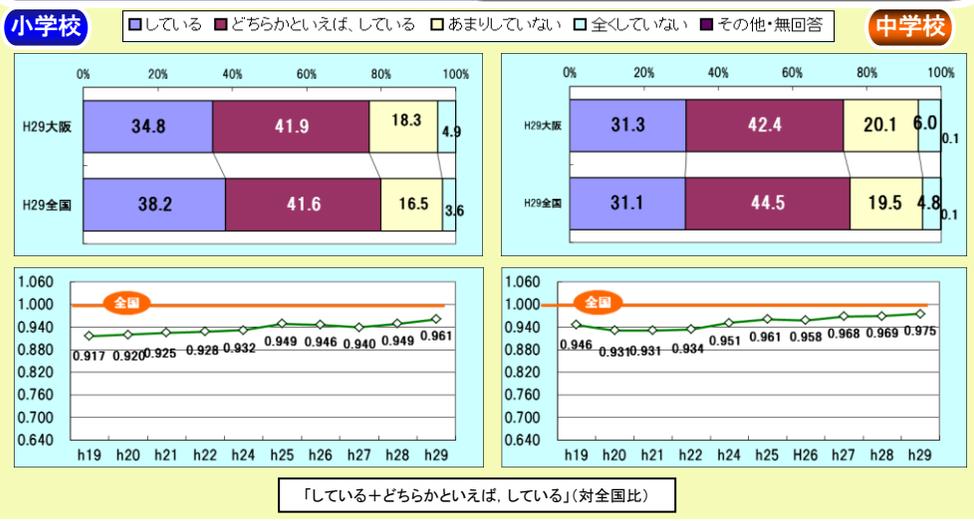
・小・中学校ともに、「毎日、同じくらいの時刻に起きている」児童・生徒の割合は、全国の状況を下回っているが、経年変化で見ると対全国比が一番高くなっている



3 就寝時刻

Q: 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか?

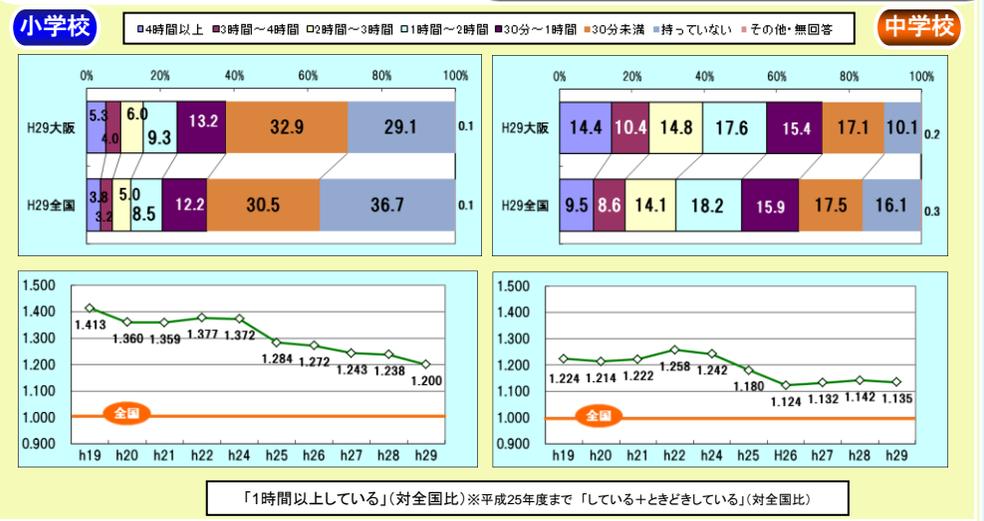
・小・中学校ともに、「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」児童・生徒の割合は全国の状況を下回っているが、対全国比は上昇する傾向にある



4 携帯電話やスマートフォンの使用

Q: 普段(月～金曜日)、どれくらい携帯電話などで通話やメール等を行いますか?

・携帯電話やスマートフォンを持っている割合は、小・中学校ともに全国より高く、通話やメール、インターネットをする時間は全国の状況よりも長い傾向にある
 ※ 質問項目の文言が平成26年度から変更



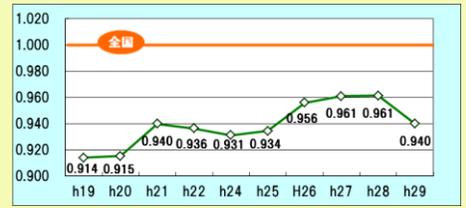
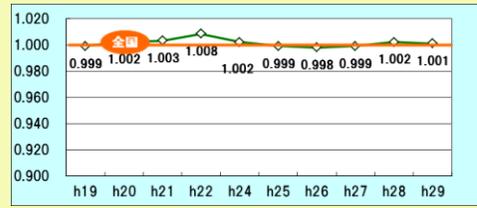
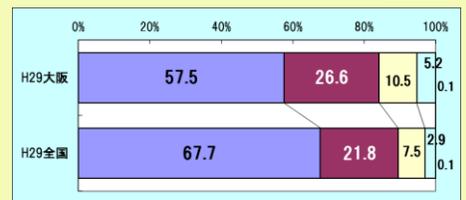
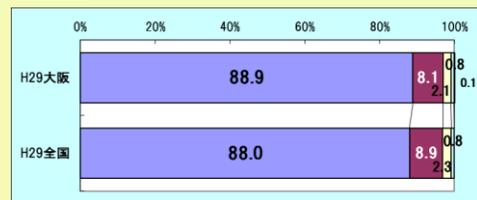
◆帯グラフの数値はすべて%表示です。
◆折れ線グラフの数値(対全国比)は、大阪府/全国で算出した値です。

5 学校の宿題

Q: 家で学校の宿題をしていますか?

・家で学校の宿題をしている割合は、中学校において全国
の状況を下回っている

小学校 している どちらかといえば、している あまりしていない 全くしていない その他・無回答 中学校 している どちらかといえば、している あまりしていない 全くしていない その他・無回答



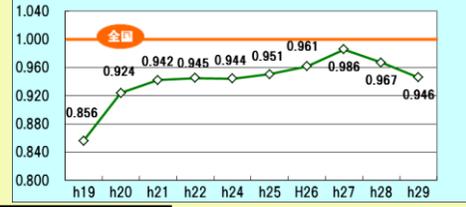
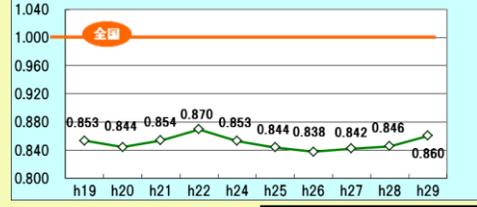
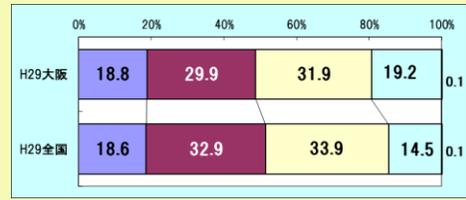
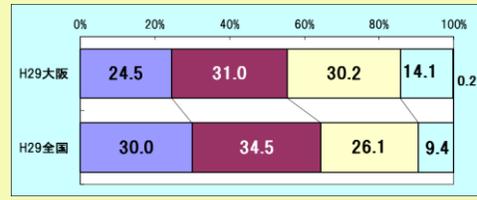
「している+どちらかといえば、している」(対全国比)

7 自主的・計画的な家庭学習

Q: 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか?

・「自主的・計画的に家庭学習に取り組んでいる」児童・生徒
の割合は、全国の状況を下回っている

小学校 している どちらかといえば、している あまりしていない 全くしていない その他・無回答 中学校 している どちらかといえば、している あまりしていない 全くしていない その他・無回答



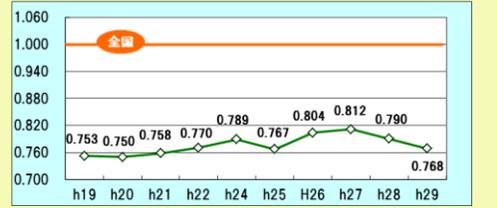
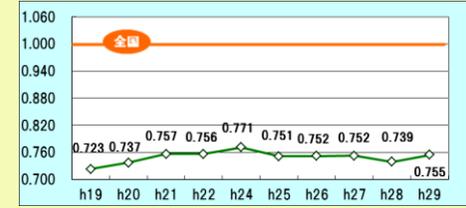
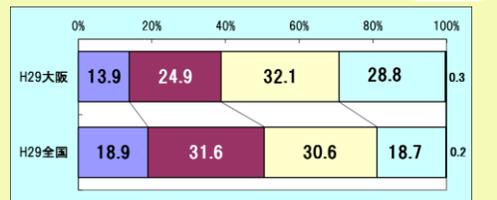
「している+どちらかといえば、している」(対全国比)

6 授業の復習

Q: 家で学校の授業の復習をしていますか?

・家で学校の授業の復習をしている児童・生徒の割合は、
小・中学校ともに全国の状況を下回っている

小学校 している どちらかといえば、している あまりしていない 全くしていない その他・無回答 中学校 している どちらかといえば、している あまりしていない 全くしていない その他・無回答



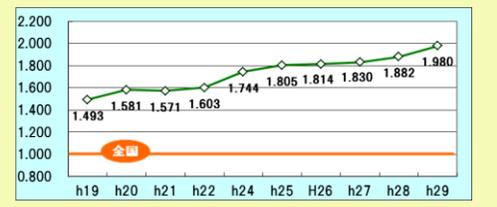
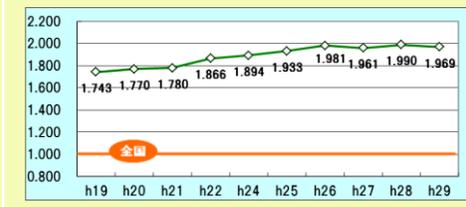
「している+どちらかといえば、している」(対全国比)

8 休日の家庭学習

Q: 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか?

・「休日に家庭学習を全くしない」児童・生徒の割合は、全国の
状況を上回っており、中学校においては対全国比は上昇する
傾向にある

小学校 4時間以上 3時間~4時間 2時間~3時間 1時間~2時間 1時間より少ない 全くしない その他・無回答 中学校 4時間以上 3時間~4時間 2時間~3時間 1時間~2時間 1時間より少ない 全くしない その他・無回答



「全くしない」(対全国比)

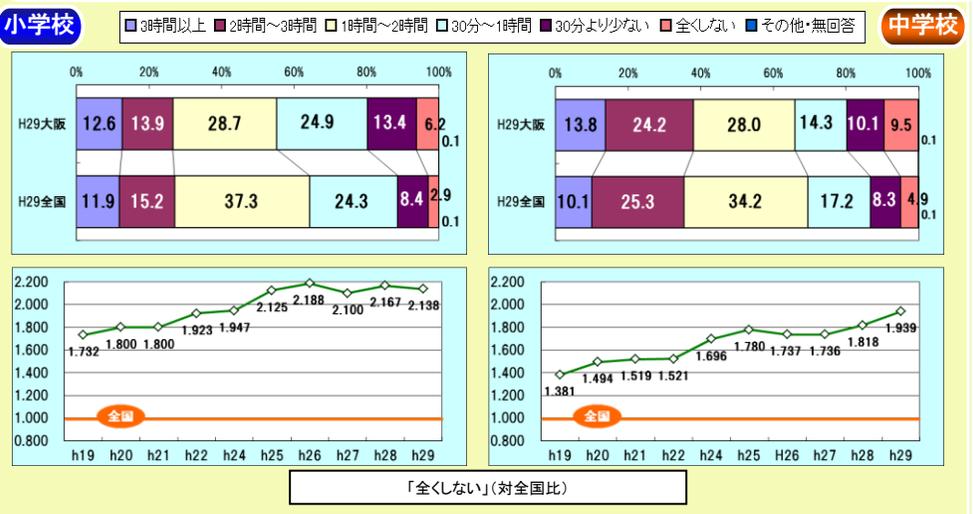
◆大阪の子どもたちの様子(公立小・中学校) - 児童・生徒質問紙調査より - No.3

◆帯グラフの数値はすべて%表示です。
 ◆折れ線グラフの数値(対全国比)は、大阪府/全国で算出した値です。

9 1日あたりの勉強時間

Q: 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか?

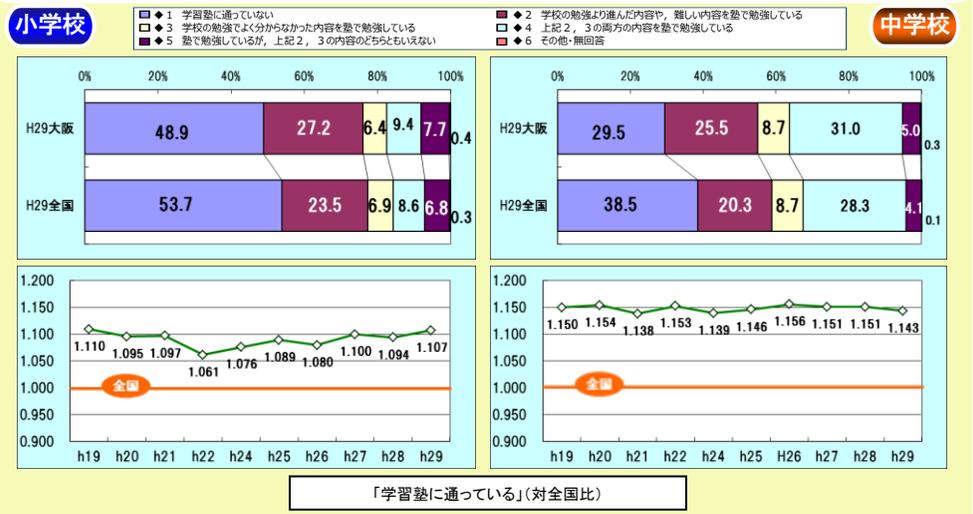
・「普段、家庭学習に全く取り組まない」児童・生徒の割合は、小・中学校とも全国の状況を上回っている



10 学習塾等での勉強

Q: 学習塾(家庭教師を含む)で勉強をしていますか?

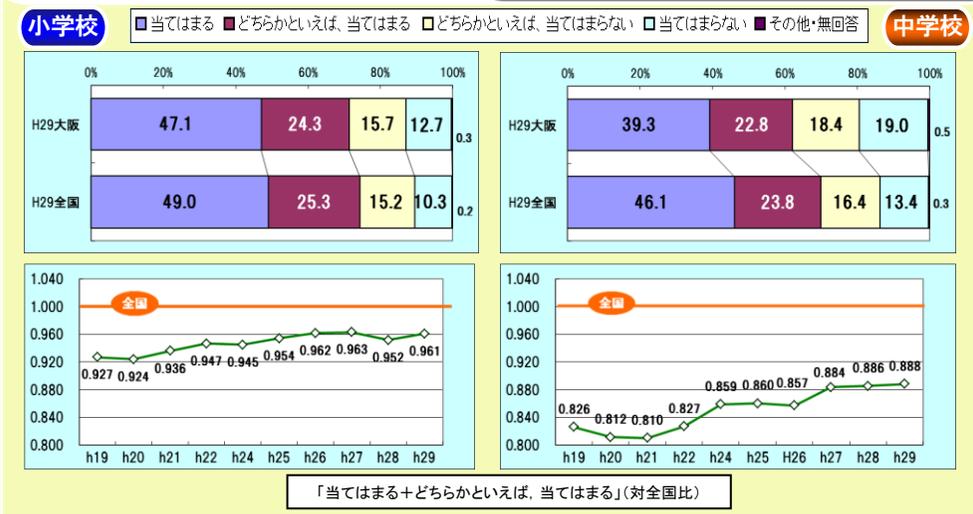
・小・中学校ともに、通塾率は全国の状況を上回っている



11 読書の好き嫌い

Q: 読書は好きですか?

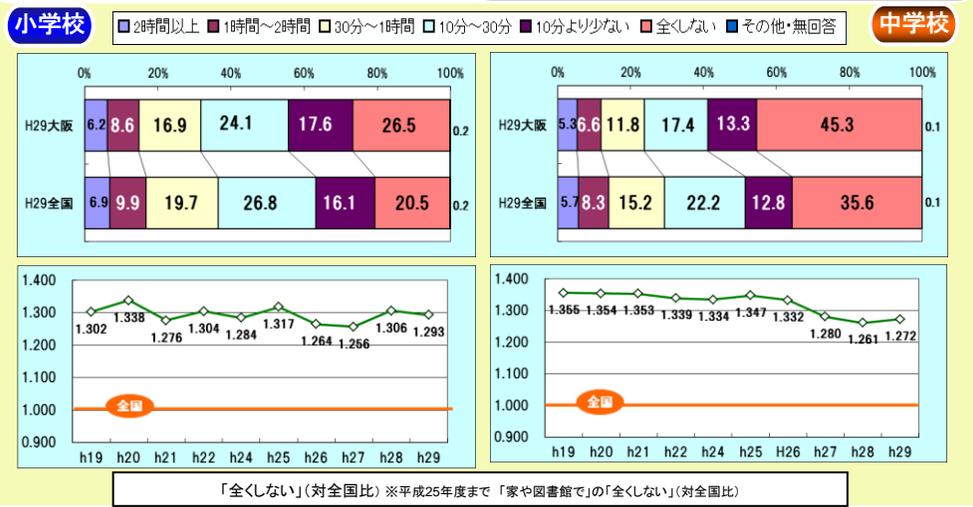
・読書の好きな児童・生徒の割合は、全国の状況を下回っているが、中学校の対全国比は上昇する傾向にある



12 読書の時間

Q: 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、どれくらいの時間、読書しますか?

・「普段、学校の授業時間以外に読書を全くしない」児童・生徒の割合は、小・中学校とも全国の状況を上回っている



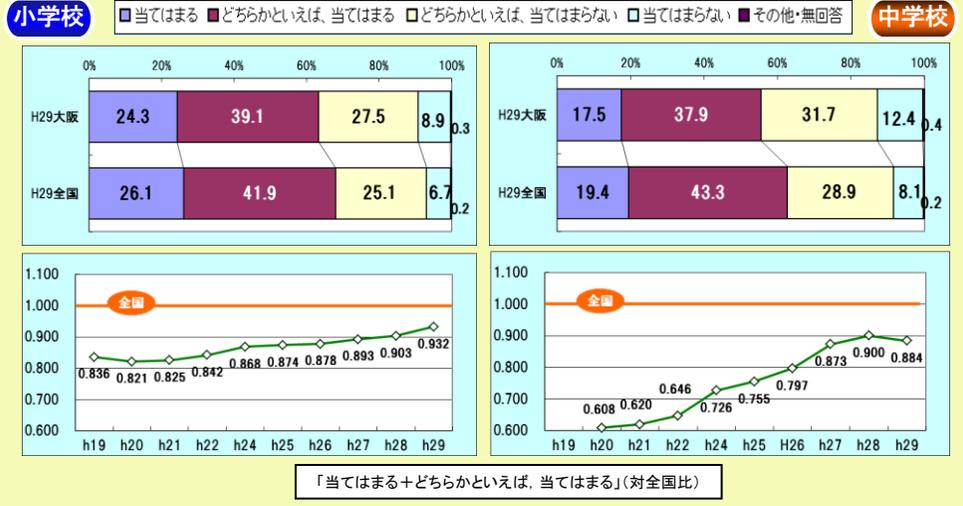
◆大阪の子どもたちの様子（公立小・中学校）－ 児童・生徒質問紙調査より － No.4

◆帯グラフの数値はすべて%表示です。
 ◆折れ線グラフの数値（対全国比）は、大阪府/全国で算出した値です。

13 国語の授業について

・国語の授業で、「自分の考えを話したり、書いたりしている」と回答した割合は、全国の状況を下回っている

Q：国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか？

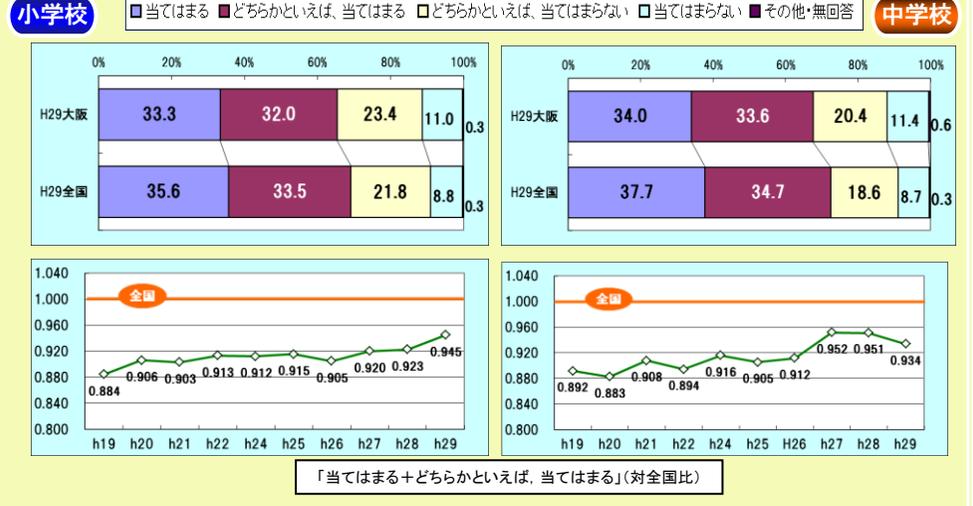


14 算数・数学の授業について

・算数・数学の学習内容を、普段の生活や将来のことに結び付けて意義付けている児童・生徒の割合は、全国の状況を下回っている

Q：算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか？（小学校）

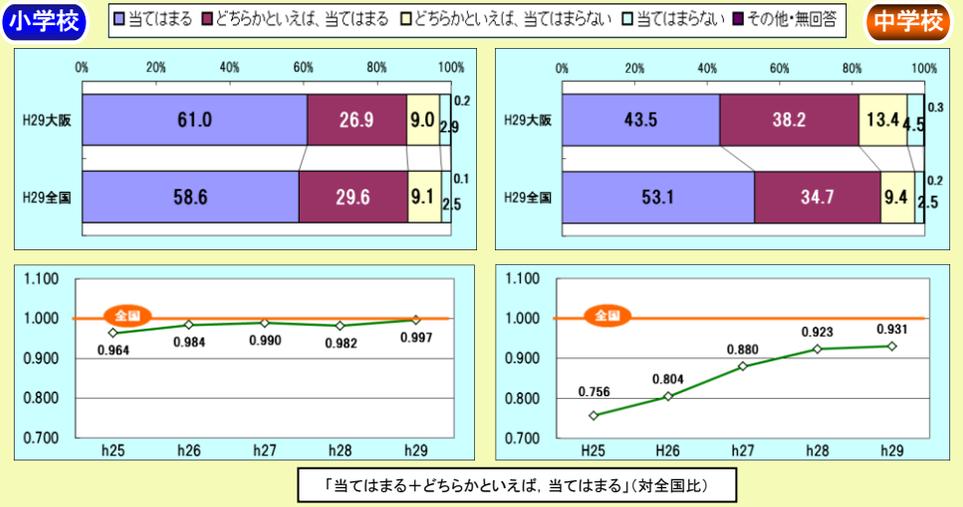
Q：数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか？（中学校）



15 目標の提示

・小・中学校ともに、授業の中で「目標が示されている」と捉えている児童・生徒の割合は、全国の状況を下回っているが、対全国比は上昇する傾向にある

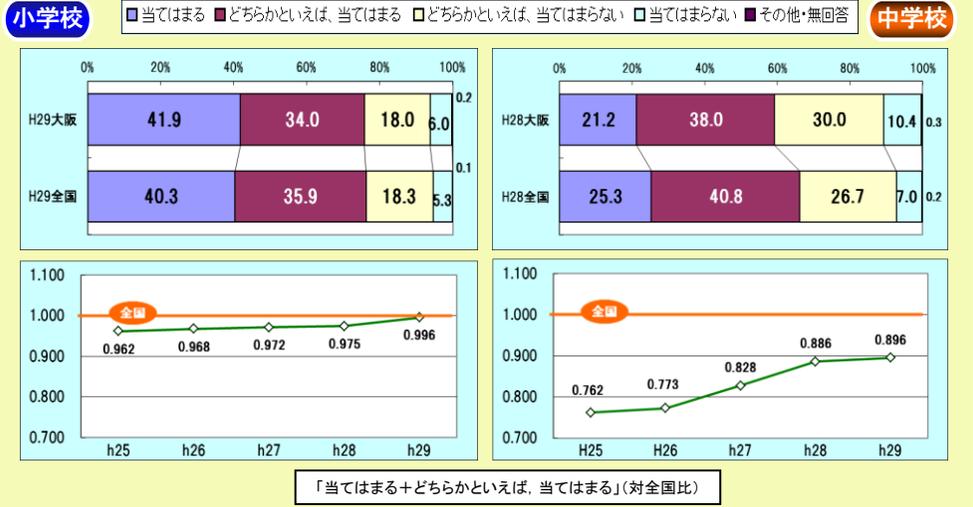
Q：普段の授業では、授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていると思いますか？



16 振り返る活動

・小・中学校ともに、授業の中で「振り返る活動が行われている」と捉えている児童・生徒の割合は、全国の状況を下回っているが、対全国比は上昇する傾向にある

Q：普段の授業では、授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていると思いますか？

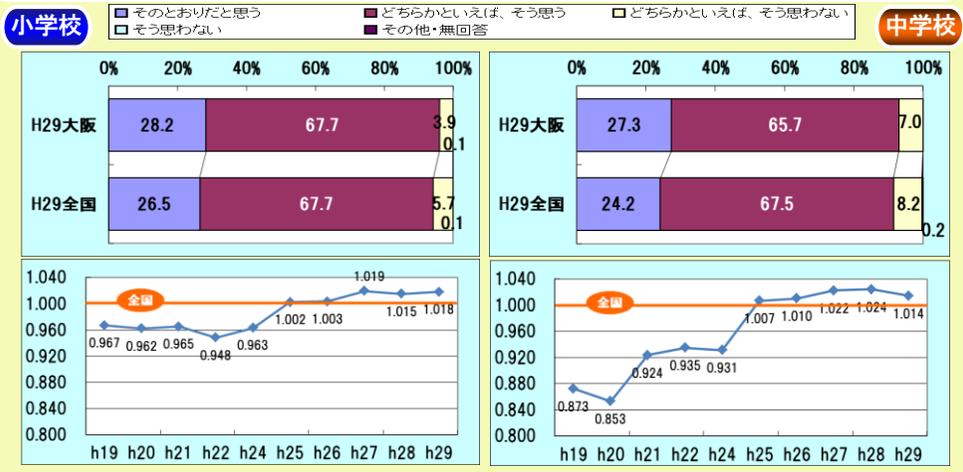


◆帯グラフの数値はすべて%表示です。
 ◆折れ線グラフの数値(対全国比)は、大阪府/全国で算出した値です。

1 学習への熱意

Q: 熱意を持って勉強していると思いますか?

「児童・生徒は熱意を持って勉強している」と捉えている学校の割合は、小・中学校ともに全国を上回っている

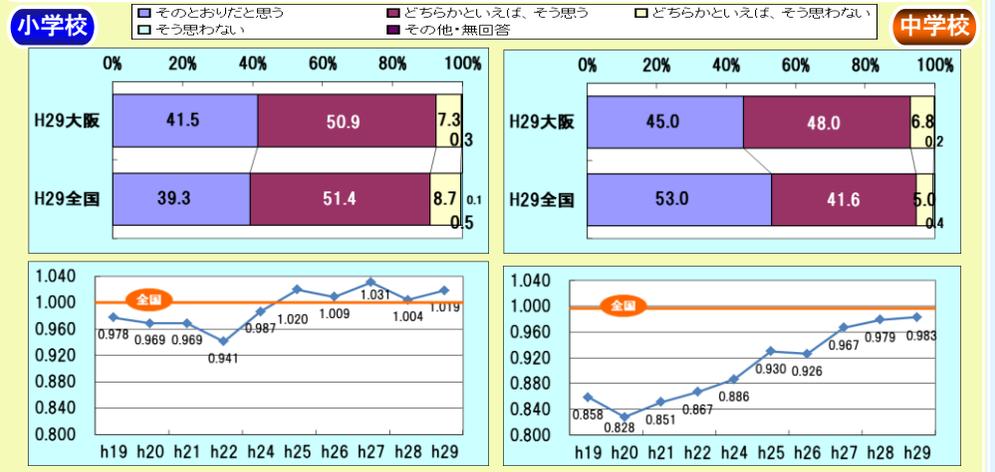


「そのとおりだと思う+どちらかといえばそう思う」(対全国比)

2 授業中の落ち着き

Q: 授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか?

「授業中の私語が少なく、落ち着いている」と捉えている学校の割合は、小学校では全国を上回っている。中学校では下回っているが、対全国比は上昇する傾向にある

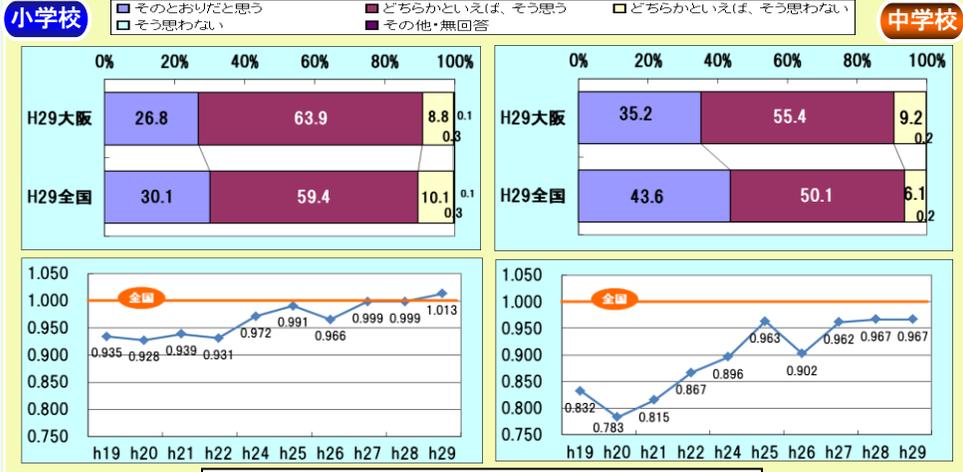


「そのとおりだと思う+どちらかといえばそう思う」(対全国比)

3 礼儀正しさ

Q: 児童・生徒は礼儀正しいと思いますか?

「児童・生徒は礼儀正しい」と捉えている学校の割合は、小学校では全国を上回っており、中学校では全国を下回っている

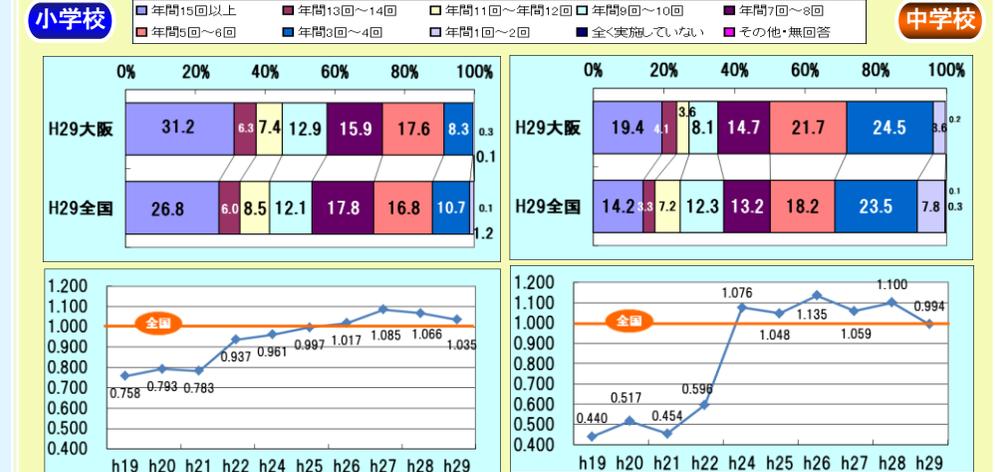


「そのとおりだと思う+どちらかといえばそう思う」(対全国比)

4 校内研修

Q: 授業研究を伴う校内研修を前年度、何回実施しましたか?

「授業研究を伴う校内研修の実施回数が7回以上の割合は、小学校では全国を上回っており、中学校では全国とほぼ変わらない



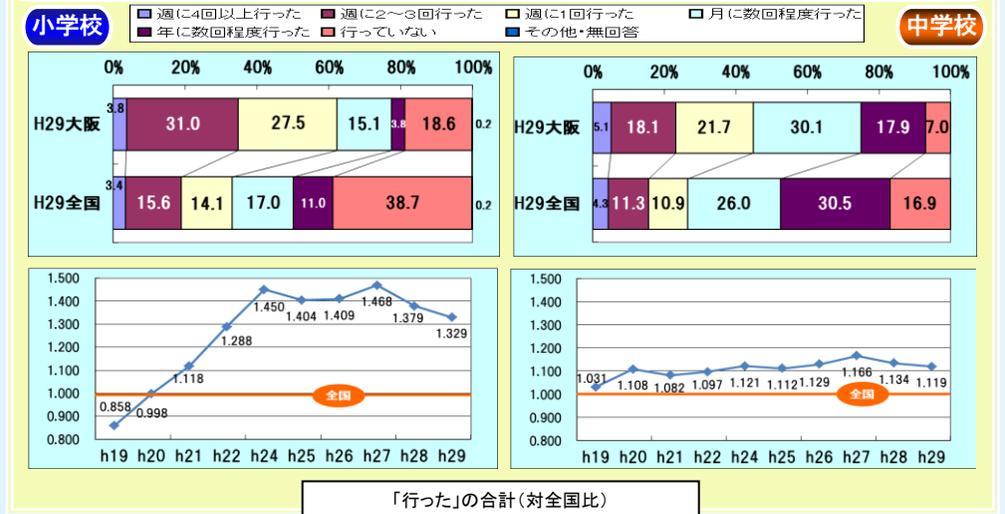
「7回以上実施している」(対全国比)

◆帯グラフの数値はすべて%表示です。
◆折れ線グラフの数値(対全国比)は、大阪府/全国で算出した値です。

5 放課後の活用

・放課後の学習サポートの実施状況は、小・中学校ともに全国の状況を上回っている。特に小学校においては、大きく上回っている

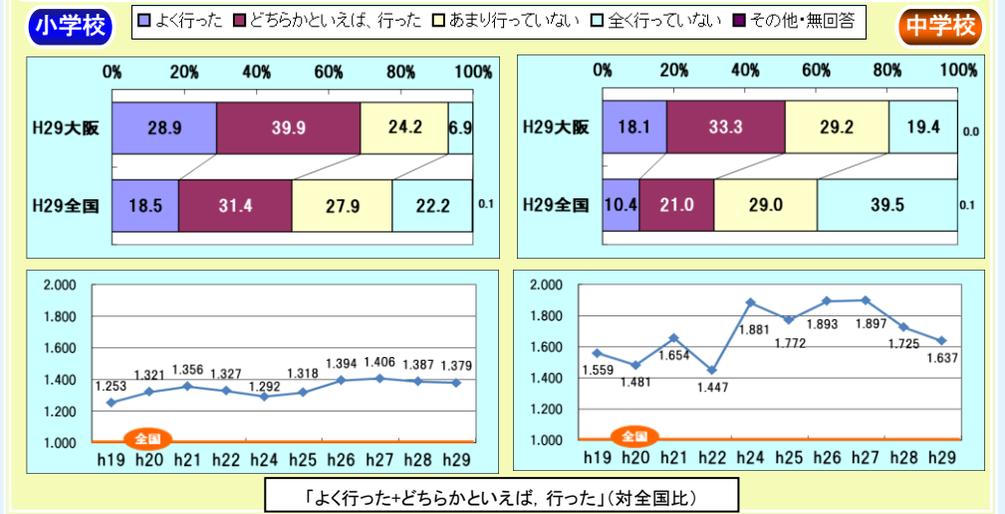
Q: 補充的な学習サポートを実施していますか?



6 授業サポート

・ボランティア等による授業サポートの実施状況は、小・中学校ともに全国の状況を大きく上回っている

Q: ボランティア等による授業サポート(補助)を行いましたか?



7 PTAや地域の人参加

・PTAや地域の人による学校の教育活動への参加状況は全国の状況を下回っているが、対全国比は上昇する傾向にある

Q: 学校の諸活動にボランティアとして参加してくれますか?

